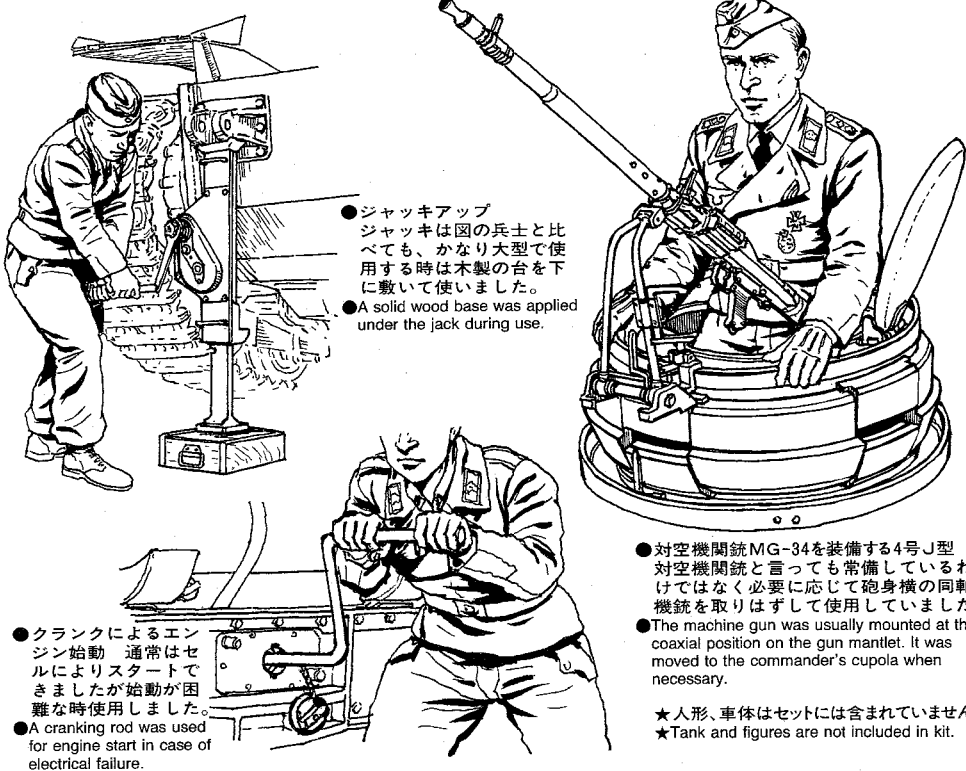


MILITARY MINIATURES



PANZERKAMPFWAGEN IV ON-VEHICLE EQUIPMENT SET

1/35 ドイツIV号戦車 車外装備品セット



- ジャッキアップ
ジャッキは図の兵士と比べても、かなり大型で使用する時は木製の台を下に敷いて使いました。
- A solid wood base was applied under the jack during use.

- クランクによるエンジン始動 通常はセルによりスタートで済みますが始動が困難な時使用しました。
- A cranking rod was used for engine start in case of electrical failure.

- 対空機関銃MG-34を装備する4号J型
対空機関銃と言っても常備しているわけではなく必要に応じて砲身横の同軸機銃を取りはずして使用していました。
- The machine gun was usually mounted at the coaxial position on the gun mantlet. It was moved to the commander's cupola when necessary.

★人形、車体はセットには含まれていません。
★Tank and figures are not included in kit.

第二次大戦ドイツの主力戦車、IV号戦車の車外装備品を集めたセットです。モデルの仕上がりを高めるアクセサリとして、また情景等に幅広く使えます。大戦を通じて戦い数多くのタイプが登場したIV号戦車ですから装備品も時期によって違いが見られます。下はその一例です。

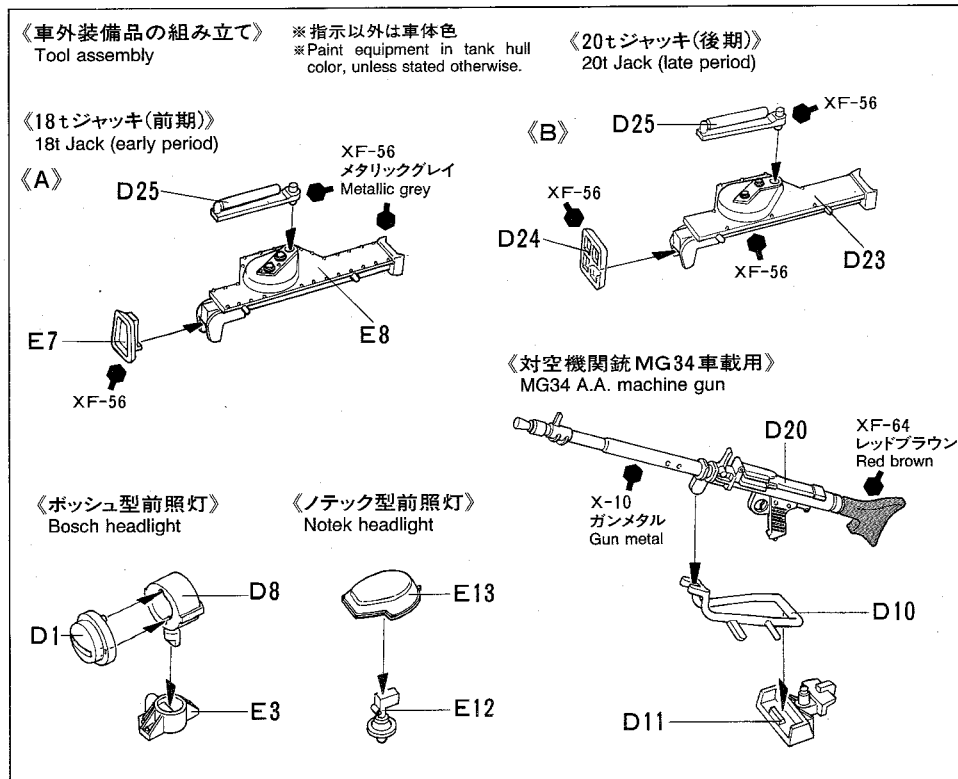
●ジャッキ：修理や整備時に車体を持ち上げるためのジャッキは当初は18tタイプでしたが、G型が登場した頃からは、増加した車重に対応するため主に20tタイプが装備されていたようです。●エンジン始動用クランク：IV号戦車はセルスターターでエンジン始動ができました

が、それでも始動が出来ない場合はクランクを用い手動でエンジンを廻して始動させました。最終型のJ型では生産の簡易化のために継ぎ目のない一体型のクランクとなりました。●ノテックライトとボッシュライト：1940年末のD後期型から前照灯に使用されていたノテックライトはF2型よりボッシュ社製のライトに変更されました。また両社のライトは戦車を中心にドイツ車輛に幅広く使用されていました。●クリーニングロッド：砲身内を清掃するためのクリーニングロッドは長砲身の75mm砲を装備したF2型以降、4分割の長いタイプとなりました。

case of electrical failure. The final "J" version used a one-piece crank handle which made for better productivity.

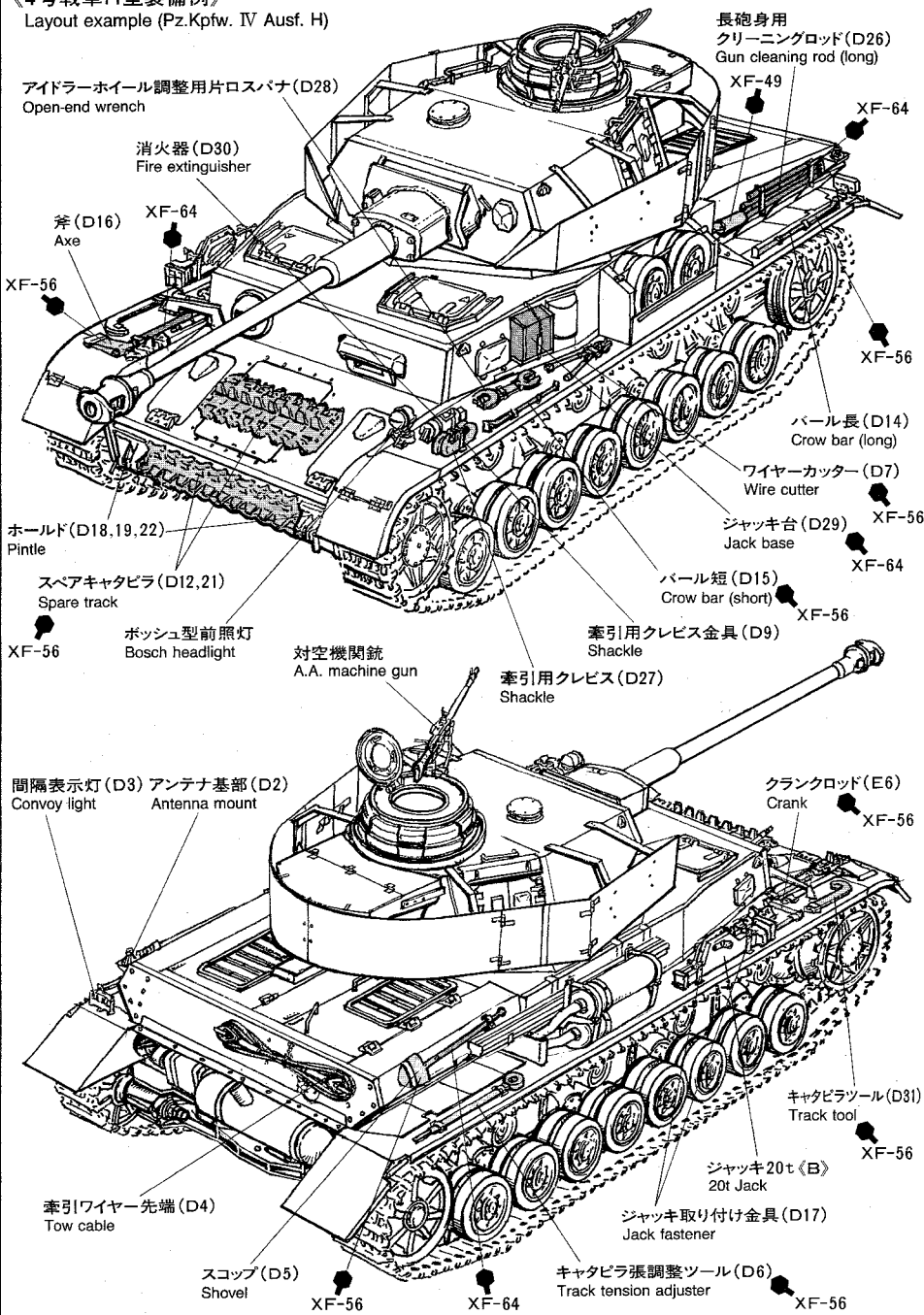
●Blackout light: The headlights were initially produced by the Nova Technik or Notek firm, but were replaced by the Bosch lights on the F2 and later versions. Lights from both companies were widely used on German fighting vehicles.

●Gun barrel cleaning rod: Following introduction of the long barrel 75mm main gun on the F2 and later versions, the cleaning rod was made in a longer, 4-piece unit.



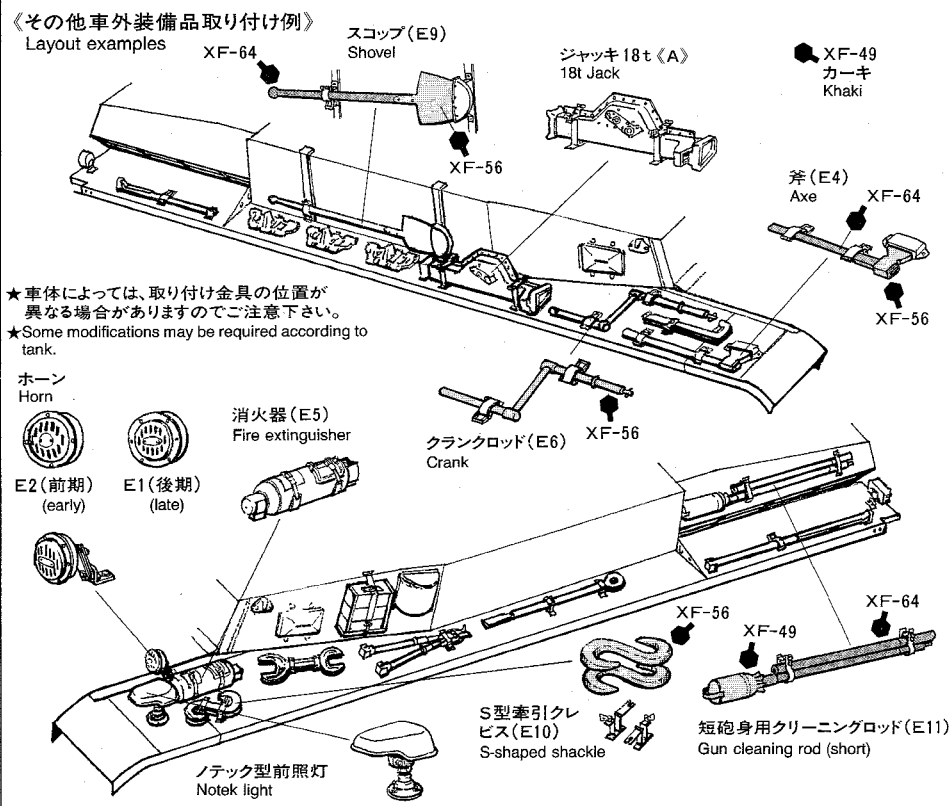
《4号戦車H型装備例》

Layout example (Pz.Kpfw. IV Ausf. H)



《その他車外装備品取り付け例》

Layout examples



★車体によっては、取り付け金具の位置が異なる場合がありますのでご注意ください。
★Some modifications may be required according to tank.